

原 著

多発性骨髄腫に対するサリドマイド療法の後方視的検討

山崎悦子¹⁾, 藤田敦子²⁾, 大島理加²⁾, 橋本千寿子³⁾,
藤巻克通⁴⁾, 酒井リカ²⁾, 藤澤信²⁾, 小川浩司⁵⁾,
田口淳⁶⁾, 石ヶ坪良明⁷⁾

¹⁾ 大和市立病院 血液内科, ²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科,

³⁾ 神奈川県立がんセンター 化学療法科, ⁴⁾ 藤沢市民病院 血液膠原病科

⁵⁾ 横須賀市立市民病院 血液内科, ⁶⁾ 静岡赤十字病院 血液内科

⁷⁾ 横浜市立大学大学院医学研究科 病態免疫制御内科学

要 旨: 横浜市立大学附属病院およびその関連施設においてサリドマイド (Thal) 治療を受けた多発性骨髄腫 (MM) 患者で, その治療効果および有害事象について後方視的検討を行った. 対象は2001年11月から2006年11月までに Thal 治療を開始した43例 (男性21例, 女性22例) で, 年齢中央値66 (39-83) 才であった. 前治療としては42例が Thal 以前に化学療法 (11例の自己幹細胞移植を含む) を行われており, うち21例は2レジメン以上の化学療法がおこなわれていた. Thal 投与量は200mg/日以下が38例, 300~400mg/日が5例であり, ほとんどが少量投与であった. 全体の治療奏功率は32.6%, 無増悪期間は中央値11か月であった. ステロイド併用群 (22例) と Thal 単独群 (21例) の間で, 奏功率, 無増悪期間ともに有意差を認めなかった. 有害事象としては便秘, 皮疹, 眠気, 全身浮腫, 倦怠感が多く, 8例で皮疹, 味覚障害, 白血球減少症, 腎障害のために Thal 中止を必要とした. 一方, 海外からの報告が多い血栓症を併発した症例はなかった. 再発難治性多発性骨髄腫に対して Thal は有効であり, 合併症も許容範囲であったが, 効果の長期持続は困難であった.

Key words: 多発性骨髄腫 (multiple myeloma), サリドマイド (thalidomide)